

かわらばん 妻入り

事務局 出雲崎町
新潟県教育委員会
☎0258-78-2250
FAX 78-4559

妻入りの街並推進事業に

ついて感じたこと

教育委員会 教育課長 山田 広行

あけまして
おめでとろ
ございます



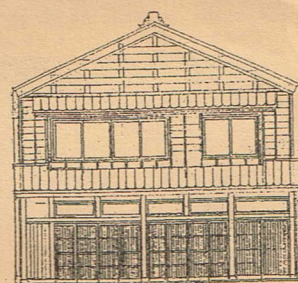
平成十三年度より「妻入り街並景観推進事業」の事務を教育委員会事務局が行なうことになりましたので今後ともよろしく願います。

明けましておめでとろでございます。希望の二〇〇一年は残念ながら厳しい一年でした。そんな中で当協議会の活動においては、明るい話題がいくつかありました。

特に「妻入りの街並」に対する理解と評価が各方面で高まりました。また、県のご理解で「一村一価値づくり事業」の登録団体に認定され、おかげさまで各種事業を活発に展開する事が出来ました。今年も皆さんのご理解ご協力で貴重な「妻入りの街並」の景観整備に努力したいと思っております。

全国的に珍しい三・六キロに連なる「妻入りの街並」を保存、修景を目的として活動されておられる「出雲崎妻入りの街並景観推進協議会」の会員の皆さんに敬意を表すものであります。

また、当会は「妻入り住宅」の貴重性をアピールしながら観光等を旨めた、町全体の活性化を目標とした活動を目指しており、この事業活動では、会報誌の発行、住民への植栽プランターの配布、おもしろ看板やのれんの作製、更に歴史の継承と街並散策を目的に「



建物イメージ図

北国街道交流 会館（仮称）の 名称の募集！

街並み散策の拠点として尼瀬（稲荷町）地内に北国街道交流会館（仮称）が今春着工、14年度の完成を予定しております。この施設は『妻入りの街並』を訪れる人々に伝統的な「妻入り住宅」を紹介すると共に休憩所、街並みの説明、ギャラリー、各種講座等の集会施設として活用する予定です。

この施設に親しみやすい名称を募集しますので奮ってご応募してください。

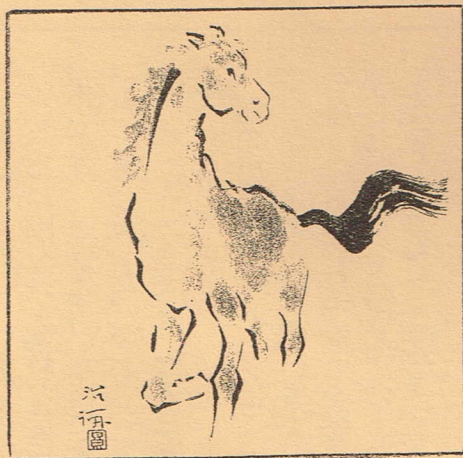
- ☐ 名称には、次のことを考慮してください。
- (1) 妻入りの街並みをイメージさせるもの。
 - (2) 町民に親しみの持てるもの。
 - (3) 広く町外の人々にも施設の利用を呼びかけるもの。

☐ 応募の締切

平成14年1月31日（木）（当日消印有効）

その他、応募の詳細は広報「いずもざき」、募集チラシをご覧ください。

〔問合せ・送り先〕 出雲崎町教育委員会 ☎025-78-2250



午歳の春

景丘 治彌

中永トンネル開通記念

シンポジウム開催

『二十一世紀にふさわしい魅力ある町づくりと市町村合併について』をテーマに、『出雲崎の魅力を生かした町づくり』と題し、鯉江康正長岡大学助教授による基調講演、田中正氏をコーディネーターに五人のパネリストによる活発な討論が行なわれました。

今回は当日パネリストをつとめられた在町の若い二人から『魅力ある町づくり』について寄稿を戴きました。お二人に感謝しつつ、掲載させていただきました。

市町村合併の趨勢と町の対応、観光拠点としての史跡や街並保存を巡る意見も出され、大勢の町民が感銘深く聞き入りました。

『創り伝える喜び』

川西 鈴木 憲之

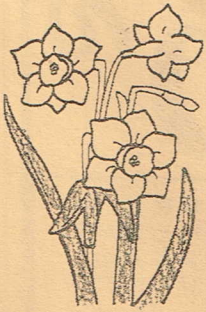
最初に『切妻作りの家屋が連立する妻入りの家』この街並景観が歴史国道に認定される事に喜ばしいことの中に一抹の不安を感じました。『自由の束縛』そんな感じでした。

今までに、他町村、県外の人達

といろいろ交流していく中で出雲崎は『歴史のある町』『景観がすばらしい』『自然に恵まれている』等々多くの言葉を頂きました。ですがその言葉を聞くたびに、『それと住みよい町はイコールか？』という疑問が私の中で広がっていきましました。

そんな思いがある中、『歴史国道整備事業』『ふるさと新潟の顔づくり』等による事業が始まって行くなかで、推進協議会の地道な活動が形となり、尼瀬地区の景観舗装や改築をする方々の家造りに対する取り組み方が、現実の物として見えてきました。

時代に合った物の作り、将来に良い物を残したいと思う気持ち、これからも難問が次々と出てくると思います。推進協議会の皆様、一つ一つクリアし、『創る』というテーマで進んでいく姿は、必ず良い成果が現れるでしょう。協議会の皆様の、一層のご活躍を御祈念申し上げます。



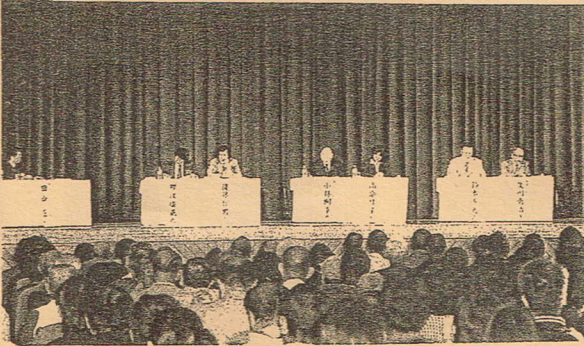
美しい街並みに出会って

上野山 高桑 佳子

私が初めて息をのむほど美しい出雲崎に出会ったのは、丁度田植えの頃でした。私の家の田んぼは木折町の山手の西越側にあります。「田んぼのてんこつをもつちよっ」といくと海が見えるよ」と言われ興味津々で草藪を登りました。断崖に立った瞬間の感動は今でも忘れません。

突然空と海に全身がつつまれて時間が止まったようでした。3時頃だったでしょうか。傾きかけたやわらかな陽が赤い小さな灯台の方向に映えて、飛ぶ鳥も船もゆっ

中永トンネル開通記念シンポジウム
21世紀にふさわしい魅力ある町づくりと市町村合併について



熱く未来を語ったシンポ風景

くり動いていたように思います。

眼下には細く長く素朴な街並みが広がり、屋根屋根が本当にきれいだと感じました。後から「妻入りの街並み」と聞き、なるほどと思ったものです。

私の出雲崎のイメージはこのシンからスタートしています。他の多くのきれいな出雲崎を発見しましたが「うちの田んぼの上から見た海と街並みが一番だ。」と今も思っています。

今回、中永トンネル開通記念のシンポジウムに参加し、出雲崎町の今後の発展について考える機会を得ました。通じて色々と思うところはありましたが、「素朴で地道に何が悪い！」と聞き直ってしまいました。ただ欲を言えば、素朴で地道なままアピールできればいいな……と思うのです。通過型から滞在型への転換は点を繋ぐことで少し近づけないものでしょうか。上から眺めて景色を堪能し、内から街並みを歩いて納得し、外から（できれば海から）その存在を確認する……。『ここが一番』を持っている私の夢のような話かも知れませんが、皆さんの『ここが一番』はどこでしょう。語りたいたいものです。

好評だったー！

歴史の道 ウォーク

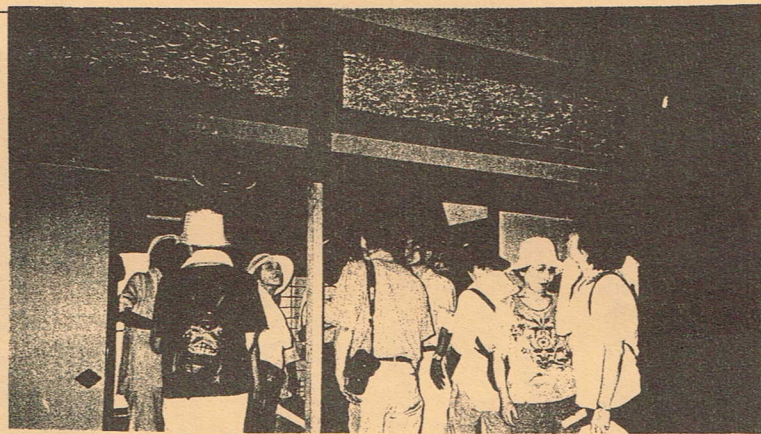
真夏を思わせる暑い八月最後の土曜日、恒例となっている歴史の道ウォークを実施。今年で七回目となり、少しマンネリ化しており参加者が少ないのではと心配したが、町内外より総勢二十余名、二班に別れ天領の里下、教育委員会機部の両氏にガイド役を依頼し開催した。

昨年より趣向を変え特別見学を行い、今年は郷土史家で良寛研究に尽くされた佐藤耐雪さんの邸宅（屋号、天金）を開放して頂く。

正面は妻入り形式で雁木があり店の前に格子が入っており大変に風情がある。家の中は、商家であった為、一般の妻入りの家の間取りとは異なっていたが、その造作などはすばらしい。当協議会鈴木会長の懇切な説明に参加者の皆さんは、ただただ驚くばかり……

やはり街並だけの案内でなく、特別見学の出来る所があると皆さんは大変興味を持って参加頂けるものと思ひ、又来年も良い企画を作りこのウォークを実施したい

のと思つた。いい汗をかけた朝の二時間余の散策だった。



佐藤耐雪邸の見学

歴史ウォークに参加して

分水町 櫻井 允子

小学校五年までで過した故郷出雲崎の記憶は今でも鮮やかである。

上校舎での学校行事、趣のある家並み、数少ない洋風建築、善乗寺の階段や海側の小路など。

それらの歴史的意味を説明して頂いたことがウォーク参加の収穫でした。

あった。けれども駆け足だったのがとても残念だった。

感銘したことが二つある。一つは、一般に余裕のなかった大正十一年四月に良寛堂が起工された様子を相馬御風の書で見たからである。立派な良寛堂を先人の偉業は素晴らしいと思つた。

二つには佐藤耐雪家の訪問である。出格子に重厚な部（しとみ）が印象的である。ヒンヤリとする広い土間と土蔵、坪庭の一木一草まで趣がある。座敷の佇まいは黒光りの柱と高大井、由緒ある調度品が昔のままである。

耐雪翁の徳の下（もと）に多くの文人、名士の方々が良寛さまの心を求めて語り合つたであろう座敷の雰囲気は偲ばれた。

佐渡金山と江戸を結ぶ北国街道の要衝として、多くの人々が往来し、多くの文人が奇遇した文化豊かな出雲崎を再確認した一日であった。獄門跡で解散。近代橋夕日ラインを通り有意義な催しに感激した。

大好きな海と町

燕市 小川 孝子

暑い夏の終わりに、歴史街並ウォークに参加しました。偶然にも

久しぶりに立ち寄った時代館で、このイベントのポスターを見たのがきっかけだったので、気持ちのいいひとときを過ごすことができました。

天気の良い休日や仕事がつうにいなかった日、和島を通過して出雲崎に海を見に行きます。私の大好きな海、大好きな町です。

町の中に入って一軒一軒ながめるのは、今回が初めてだったので、自分の住む町を大切にしていられるのがよく分かりました。

歴史は伝えていく、残していくことが大切だと思います。道案内をしていただき教えてもらったことを思い出しながら、またのんびりと歩いてみたいと思っています。どうもありがとうございました。

◆「地域づくり全国大会」が、11月15〜16日、上越市にて開催され当協議会の鈴木会長がパネリストとして出席。活動発表では、全国各地からの出席者から大きな拍手を受けました。

また、展示コーナーでは会の活動状況を紹介する為、のれん、おもしろ看板、プラントの展示と「かわらばん妻入り」の配布を行ないました。

先進地視察に参加して

Aグループ
住吉町 村越 隆夫

この度、二十名で県北の朝日村と山北町、そして村上市を研修してまいりました。

朝日村では「前の川と家並み」の保存活動で、家並の前に流れる人工的に造られた川ではあるのですが、昔は、その川が生活の中で大切な存在であって、また生きるための水源でもあり、また子供達にとっても沢ガニや小魚の生息する川として、遊び場でもあったらしいです。

今では、下水道等が整備されて水の流れはなく、「もう一度、昔の川に戻らないだろうか」と強く復活を願う活動に感激をいたしました。

その後、山北町に行き、こちらでは出羽街道の宿場町「小俣宿」(おまた)として名残がかなりあって、その家並とその家の造りを保存しようとする思いと活動が評価され、平成九年には新潟県の「一村一価値づくり優秀賞」を受賞されております。

また、おもしろかったのが、昭和五十六年に「日本国」(にほんこ



山北町 小俣宿視察

く)を愛する会」が発足したそうです。なんとスケールの大きな名前を付けたものだと思いきりしましたが、その日本国とは、公認されている山の名前だと知りビックリした次第です。

帰りには村上市に立ち寄り「町屋の屏風まつり」というイベントがまもなく開催されるこのことで、二、三日お先に拝見させてもらいました。

町の中の商家や民家で、大切にされている屏風を中心に、その他いろんな逸話を各家庭を使って、一般に公開しようという企画で、各地から数万人の見学者があるようです。また、このイベントを企画しているのは、各商家(商店)

の若手主人の皆さんが頑張っているとのこと。

今回の研修に参加して、それぞれ各地の皆さん方が、古里のすばらしい個性を改めて認識して、それを誇りを持って大切に守り、後世に継いでいく努力に大変感心させられた先進地視察でした。

緑花植栽講習会に参加して

井鼻 細木 勝子

睦み合う屋根、その軒下に四季折々の花を咲かせ心を和ませてくれます。「妻入り街並プランター」が配布されてより、いっそう関心が深まり長い街並みも楽しく行き来してしております。

昨年十月二十日、三回目の「緑花植栽講習会」が開催され、朝の随想(ラジオ)でおなじみでした、県花いっばい常任理事、小林正夫先生をお迎えし、花を育てる心を学びました。無知な私には、『種から育てよう』『茅を四〇五センチに切ってプランターの底に敷いたり、マルチングすると水はけもよく、雑草も生えにくく、有効な微生物が発生すること』自然と共生する心、環境に優しい野菜作りをも役立つ大変興味深い講習会

でした。

私に関心を寄せているお宅のプランターは春から夏へは、さわやかさを基調にしたブルー系、秋から冬へは、暖色系をと、いつも素敵な花壇に目を奪われております。小林先生の講習の中にも、花の色バランス、組み合わせ等、教わりました。風土に合った草花、海風に強く、妻入りの街並みに調和する花、花木をみんなの知恵で探り、育てる輪(和)が広がった最高です。住んでいる私達も、訪れる人達へも潤いと、安らぎを与え、豊かで美しい街並みの景観にしたいものです。

「美しいところに住むのではなく、美しいところに住む」そんな小林先生のお話に頷き、次の講習会を楽しみにしております。



熱のこもった講習会

妻入りの街 (十五)

住吉町 磯野 猛

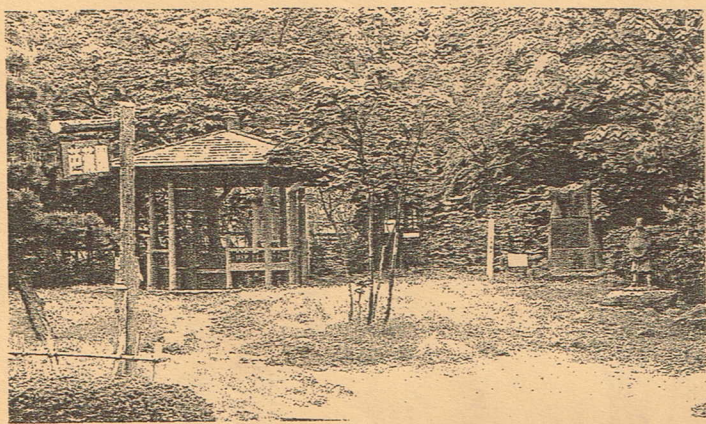
出雲崎と松尾芭蕉

松尾芭蕉が「奥のほそ道」という紀行文の中で、出雲崎で作った俳句「荒海や佐渡によこたふ天の河」という名句はあまりにも有名な史実です。その句を発表した時に書かれた「銀河の序」という名文もあり、その句と文は、住吉町の芭蕉園に建立されております。

この「天の河」の句を記念として町では毎年十月、天の河俳句大会を開催しております。県内はもちろん、県外からも俳句が寄せられ当日は中央から著名な俳人が講師として来町されます。本年は、元文部大臣、東京大学学長を務められた「有馬朗人」現在参議院議員の先生が来町されました。良寛と芭蕉の町を歩きたいという要望で、良寛堂、芭蕉園、天領の里、代官所跡、獄門場跡と、史蹟の街並を案内しましたが、妻入りの街並と、史蹟の多いことに大変興味を示されました。

丁度五千歩ほど歩きましたが少しも疲れた様子がありませんでし

た。「大丈夫ですか？」の問いかけに「はい大丈夫です。僕は毎日一万歩を欠かしたことがありませんから」などの会話と、細長い建物と細長い小路に古い歴史を感じておられました。丁度良寛記念館で「相馬御風と津田青楓」の特別展をやっておりましたので、そこへも案内、有馬さんいわく「僕



「銀河の序」碑の建つ芭蕉園

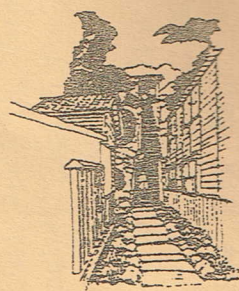
は相馬御風さんの書が大好きです」と喜んでいただきました。改めて良寛と芭蕉、そして出雲崎を訪れる文人の多いのに驚いておられました。

江戸時代中期のころは松尾芭蕉の「あら海」の句に魅せられて中央の文人が多く出雲崎へ訪れましたが、明治、大正、昭和以降は、芭蕉と共に良寛の魅力でこの町へ中央から著名人が来るようになりました。著名人だけではありません。一般の観光客の人達も年々増加しております。その中に「妻入りの家」に魅力を感じて来られる人もあります。私たちは、こうした人々たちを、どのように迎え入れるかも考えねばならない時が来たように思います。通り一ぺんの対応でなく、出雲崎の町へ来て良かったという町にしたいと思えます。

駅からハイキング
出雲崎駅長 桜井 和夫

十月二十七日に「駅からハイキング」良寛と北国街道・妻入りの街並みウォーキングが実施されました。当日は好天にも恵まれ、歩行距離約六キロに県外からの参加

「一丁の小路に
一丁の歴史あり。」



者五名を含み三十二名がさわやかな汗を流しました。

駅から西照坊、良寛の古道を経て良寛記念館へ。昼食は「良寛と夕日の丘公園」で日本海と妻入りの街並みを一望しながら用意された「タラ汁」に舌鼓。お代わりを希望する人が大勢出るほどの大評判でした。昼食後は、良寛堂、芭蕉園と妻入りの街並みの史蹟をたずねながら光照寺へ。尼瀬の宮下登一氏により史蹟、歴史を詳しく説明していただき、参加者全員大変感謝されていきました。

天領の里では、江戸時代の天領地を再現した時代館や日本一の夕日が見える夕風の橋で、当時の賑わいと日本海の雄大さをたんのうしていました。

参加された方から、行き届いた案内をしていただき楽しく街を歩けた。出雲崎の良寛など発見できてよかった。との声が多くあり、秋の出雲崎を満喫した一日でした。

オリジナル

のれんのお知らせ

Aグループ

村越 隆夫

妻入りの街並景観を今後とも維持し、さらに盛り上げて行こうと屋号又は名字の入った「オリジナルのれん」の作製を計画し、ご購入を呼びかけたところ、予想以上に大勢の方々からご希望があり、十二月中旬にお届けいたしましたので、後日、街並の各所でお目にとまることと思いますのでご期待していただきたいと思います。

木枠の補修・塗り

直しをします

Cグループ 佐々木 貞治

木枠つきプランターをお引受戴いてから四年になり『破損』『色落ち』が目立つようになりましたので、塗り直しや修理をしたり、程度によっては交換も考えています。

皆さんの要請を受けて行ないますので、遠慮なく申し出て下さい。2月中には終了する予定です。

木枠（プランター）

今年も作ります

花木用に昨年より少し大きめ（プランターは19L用です）の木枠を五十個作ります。12月から製作を始めており、3月下旬に植え付け、配布をする予定です。

何を植えたら良いか深刻に悩んでいます。皆さんの提案を心待ちにしています。

今回も昨年と同じく一部負担（千円程度）をお願いします。



◆最近「妻入りの街並」についての話題を聞く事が多くなった。この街並をもっと多くの人達が訪れるようになったらいいねとか、村上市のように街並と町家を使った展示等出来ないかとか……。

◆新潟県の「一村一価値づくり事業」に当協議会の活動が認められて、平成十三年度より活動団体として登録されました。

県地域政策課の支援を受けて地域の資源を生かした活動を進めています。

□街並の案内パンフ

□配置処を設置



街並を訪ねた人達に、散策のコースや史跡、みやげ店等を満載した「街並の案内パンフレット」がこの度、完成いたしました。

また、街並の各所に案内パンフ等を配置して訪ねた人達が『マップ』を片手に、ゆっくりと、歴史豊かな妻入りの街並の散策を楽しんでもらおうと、この度次の所に案内パンフの配置をお願いいたしました。

「尼瀬」笠原文具店・大黒屋・陶芸いづもかん・平田釣貝店・佐藤石油（住吉町）磯野骨董店・ムラコシ・第四銀行（石井町）まるこ・関根電気店・金多満留商店・船橋屋商店（羽黒町）浜勝

今後、設置場所を増やしていきたいと思ひます。

あとがき

私達協議会に大きな応援団……それは過日開催された「中水トン

ネル開通記念シンポジウム」である。アドバイザーの長岡大学助教授は、倉敷にも匹敵する街並であるとの発言があり、又それぞれのパネリストの方々も妻入りの街並をもっと大切に、その魅力を町づくりにかしては……など多数の意見発表がある。

地味な活動であったが漸く芽出しが終わり一節目に届いた感じがします。これに大輪の花をつけるまでにはまだまだ行政の力を借り又住民の皆さんから妻入りの街並について一層のご理解を頂かなければなりません。

常日頃「暗い、寒い、天井が低い、不便」という妻入りの家に対する負のイメージを払拭すべく今年より行政において、妻入りのモデルハウスとして「北国街道交流会館（仮称）」の建設が着手する運びとなりました。

この会館を来町される観光客は勿論のこと、私たちの町民も大いに利用出来る「よったかりの宿」したいものと今から期待しております。

本年もご理解とご協力のほど、よろしく願ひ致します。

井鼻 渡辺 常侃